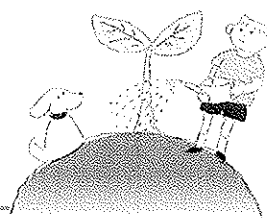


～福祉文化通信～

# 会員アンケート特集号

2012.04/21  
発行：総務委員会



日本福祉文化学会事務局 〒165-0026 東京都中野区新井 2-12-10 芸術教育研究所内

Tel. & Fax. 03-5942-8510 メール: [fukushibunka@lagoon.ocn.ne.jp](mailto:fukushibunka@lagoon.ocn.ne.jp)

## 日本福祉文化学会会員アンケート

### 129名の会員からご意見が寄せられました。

本当にありがとうございました。

- |          |             |        |             |
|----------|-------------|--------|-------------|
| 1. 送付日   | 2012年2月4日   | 2. 回収日 | 2012年2月18日  |
| 3. 送付数   | 394通        | 4. 回収数 | 129通(32.7%) |
| 5. 有効回答数 | 125通(31.7%) |        |             |

#### 6.ブロックごとの回収数

北海道	東北	北陸	関東	中部東海	関西	中国四国	九州	沖縄	記載無	合計
5	10	6	48	8	23	13	8	0	4	125名
4.0%	8.0%	4.8%	38.4%	6.4%	18.4%	10.4%	6.4%	0%	3.2%	100%

2012年2月に総務委員会では、日本福祉文化学会会員皆さまの学会や各ブロックに期待することや参加したい講座・研修会などをお聞きし、学会、各ブロック活動の更なる活性化をはかれないものかという目的のもとにアンケート調査を行いました。

実施時期や方法などは、事務局と総務委員会で話し合いをかさね、今回のような往復はがきでの調査となりました。

394名の会員の皆さまに送付をした結果、129名(32.7%)の方から返信をいただきました。その結果について概要がまとまりましたのでご報告を致します。

また現在、ブロック理事を中心に会員の方に個別具体的にヒヤリングをお願いしています。引き続きご協力をお願いします。

日本福祉文化学会総務委員会 木村たき子

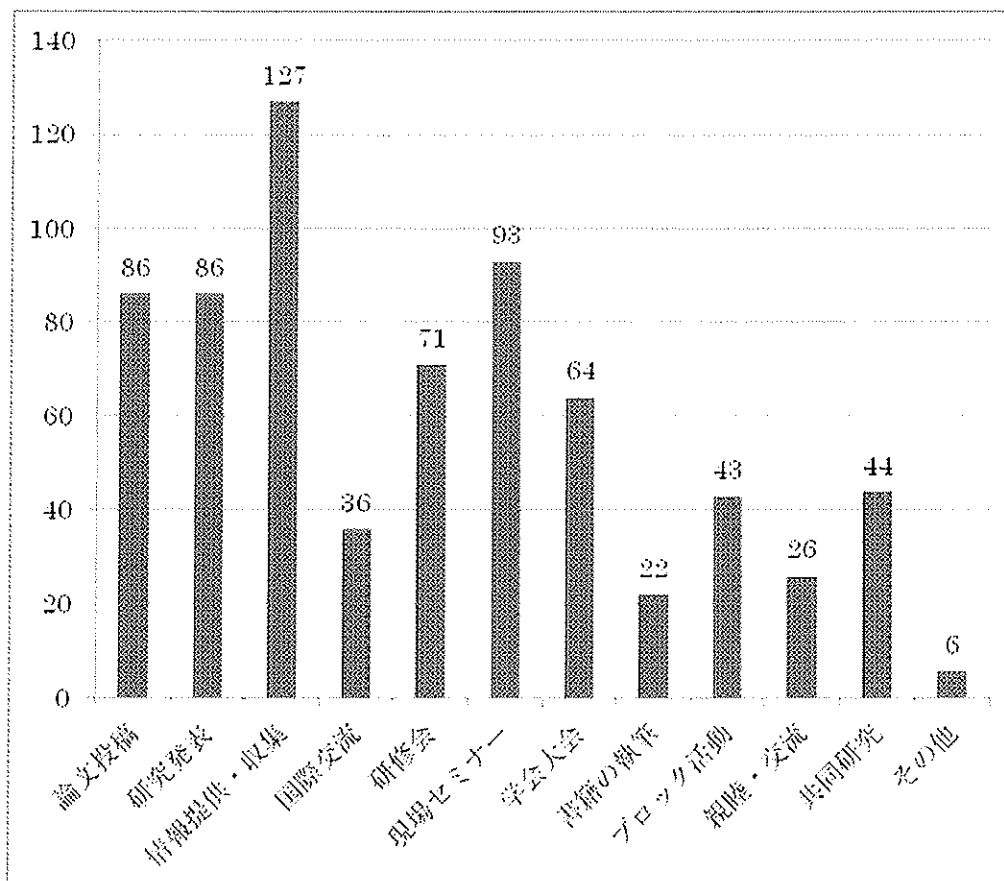
## 希望が多かった「現場セミナー」の実施や「情報提供」の充実

問1. あなたが日本福祉文化学会に期待することは何ですか。あてはまるものを選んで下さい。(3つまで)

質問項目	回答数	%
ア.論文投稿	86	12.2%
イ.研究発表	86	12.2%
ウ.情報提供・収集	127	18.1%
エ.交際交流	36	5.1%
オ.研修会	71	10.1%
カ.現場セミナー	93	13.2%
キ.学会大会	64	9.1%
ク.学会書籍執筆	22	3.1%
ケ.ブロック活動	43	6.1%
コ.親睦・交流	26	3.7%
サ.共同研究	44	6.3%
シ.その他	6	0.8%
合計	704	100%

<その他>

- 福祉文化的日本を創るための研究会
- 現場に即した研修・研究・書籍
- 現場の問題・研究者の交流
- 芸術×福祉
- 福祉文化を高めるための実質的なキャンペーン

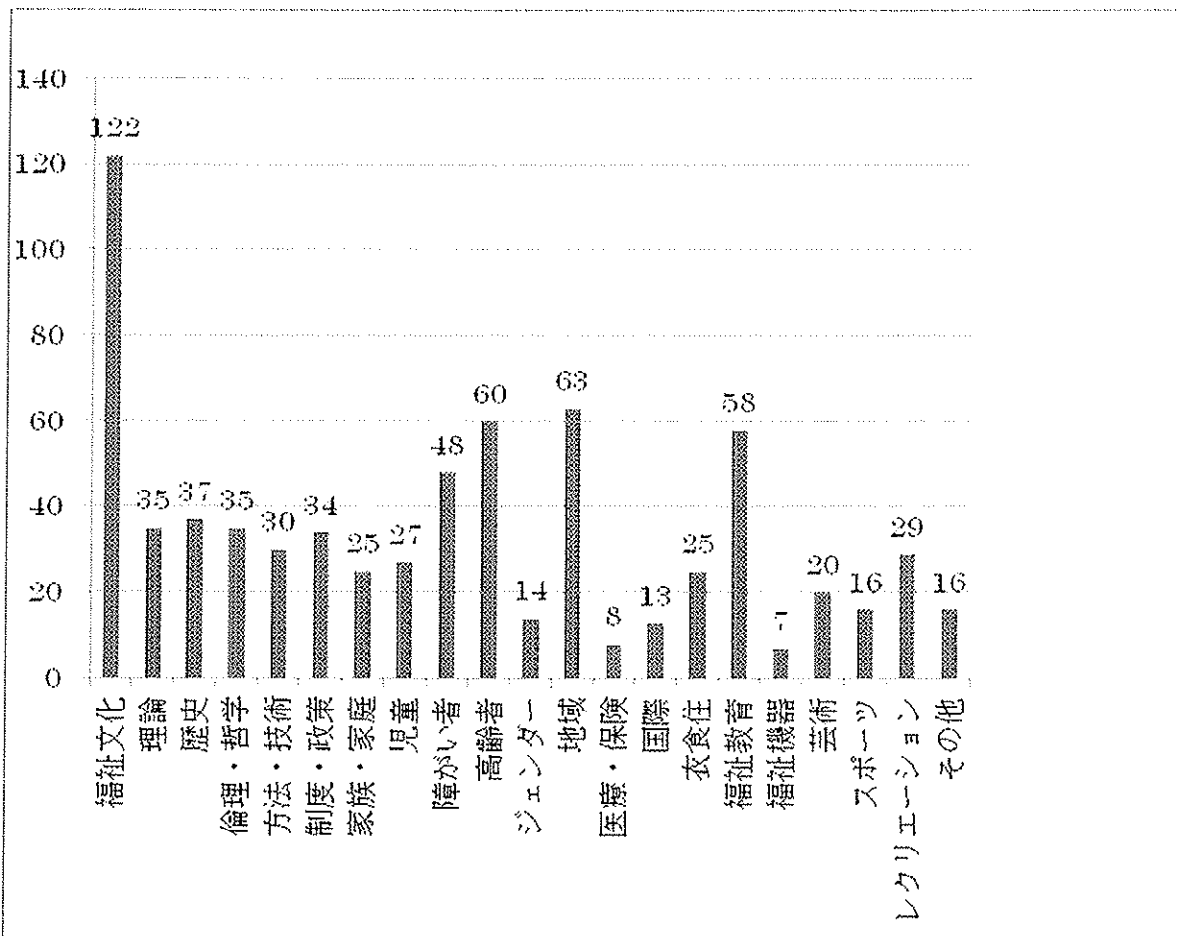


問 2. あなた自身が参加してみたい講座や研修会・研究会・セミナーの分野を選んで下さい。(3つまで)

質問項目	回答数	%	質問項目	回答数	%
ア. 福祉文化	122	16.9%	シ. 地域	63	8.7%
イ. 理論	35	4.8%	ス. 医療・保険	8	1.1%
ウ. 歴史	37	5.1%	セ. 国際	13	1.8%
エ. 倫理・哲学	35	4.8%	ソ. 衣食住	25	3.5%
オ. 方法・技術	30	4.2%	タ. 福祉教育	58	8.0%
カ. 制度・政策	34	4.7%	チ. 福祉機器	7	1.0%
キ. 家族・家庭	25	3.5%	ツ. 芸術	20	2.8%
ク. 児童	27	3.7%	テ. スポーツ	16	2.2%
ケ. 障がい者	48	6.7%	ト. レクリエーション	29	4.0%
コ. 高齢者	60	8.3%	ナ. その他	16	2.2%
サ. ジェンダー	14	2.0%	合計	722	100%

<その他>

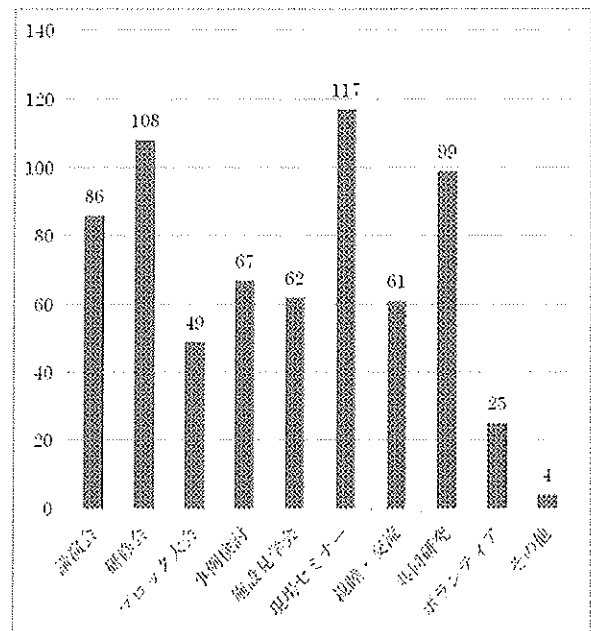
- アクティビティ
- 企業福祉・地域文化
- 余暇活動全般
- 共同研究
- 地域での福祉活動
- 現場事例・活動評価法
- パフォーマンス鑑賞



当然ながら、「福祉文化」に関するテーマに会員の関心と興味、希望が寄せられています。他には、関心のあるテーマが多岐にわたる中、「高齢者」「地域」「福祉教育」「障がい者」に関心の多さが示されました。

問3. あなたが、各ブロック活動に希望することは何ですか？あてはまることを選んで下さい。（3つまで）

質問項目	回答数	%
ア.講演会	86	12.7%
イ.研修会	108	16.0%
ウ.ブロック大会	49	7.2%
エ.事例検討会	67	9.9%
オ.施設見学会	62	9.1%
カ.現場セミナー	117	17.2%
キ.親睦・交流	61	9.0%
ク.共同研究	99	14.6%
ケ.ボランティア活動	25	3.7%
コ.その他	4	0.6%
合計	678	100%



<その他>

- 知的障がい者の芸術・文化活動
- パフォーマンス鑑賞

3-1 ブロックごとの<学会に期待すること>集計（沖縄ブロックを除く）

項目 ブロック	総数	論文投稿	研究発表	情報提供収集	国際交流	研修会	現場セミナー	学会大会	書籍執筆	ブロック活動	親睦交流	共同研究	その他
北海道	5	3	2	5	0	2	1	1	0	0	0	1	0
東北	10	7	8	6	0	3	2	3	0	1	0	0	0
北陸	6	1	0	2	0	2	5	3	0	3	2	0	0
関東	48	11	14	25	8	14	25	11	4	10	4	11	2
中部東海	8	3	1	6	1	2	2	1	1	2	1	3	0
関西	23	10	8	7	5	6	7	6	4	3	4	5	1
中国四国	13	4	8	8	1	4	4	5	1	2	1	1	0
九州	8	4	4	3	2	3	1	2	2	1	0	2	0
記載無	4	2	0	3	2	1	0	1	0	0	1	0	0

各ブロックにより活動に対する期待や具体的内容が異なっているので、会員のご意見を生かして、それぞれが地域特性にあった活動になるとよいのではないかと考えています。

3-2 ブロックごとの<参加したい講座・研修会・研究会・セミナー>集計（沖縄除く）

項目 ブロック	総数	福祉文化	理論	歴史	倫理哲学	方法技術	制度政策	家族家庭	児童	障がい者	高齢者	ジェンダー	地域	医療保険	国際	衣食住	福祉教育	福祉機器	芸術	スポーツ	レクリエーション	その他
北海道	5	2	2	0	0	1	0	2	2	1	0	1	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0
東北	10	5	1	0	1	1	3	0	0	2	3	0	4	1	0	1	5	0	0	0	2	1
北陸	6	4	0	0	1	2	0	0	0	1	3	0	4	0	0	0	2	0	0	0	1	0
関東	48	24	5	10	6	5	7	6	7	12	9	6	7	1	3	7	10	2	4	3	3	6
中部東海	8	6	0	0	2	0	0	0	1	0	3	0	3	0	1	0	3	0	2	1	2	0
関西	23	11	4	5	4	1	2	1	2	3	7	0	5	1	1	3	5	0	3	4	6	0
中国四国	13	6	4	2	2	2	3	3	1	2	4	0	6	1	1	1	0	0	0	0	0	1
九州	8	4	1	3	1	2	2	1	1	2	2	0	1	0	1	1	0	1	0	0	1	0
記載無	4	1	1	0	1	2	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0

3-3 ブロックごとの<ブロック活動に希望すること>集計（沖縄除く）

項目 ブロック	総数	講演会	研修会	ブロック大会	事例検討	施設見学	現場セミナー	親睦交流	共同研究	ボランティア	その他
北海道	5	3	4	2	0	2	1	0	3	0	0
東北	10	5	8	1	3	3	2	1	4	1	0
北陸	6	1	1	2	0	1	6	1	3	1	0
関東	48	11	16	6	21	14	27	15	16	5	2
中部東海	8	3	3	0	2	3	4	1	3	2	0
関西	23	6	12	5	6	5	8	8	14	1	0
中国四国	13	7	7	7	1	1	7	3	4	1	0
九州	8	6	4	3	1	2	3	1	3	1	0
記載無	4	4	1	0	0	1	2	1	1	1	0

## 【自由記述】

\* 会員の皆さまから寄せられた意見です。

\* 寄せられた意見の ( ) 内はブロックを表します。

1. さまざまな委員会や書籍作りに会員の参加ができるしくみをつくる。  
また、福祉文化なりを現場セミナー理論構築を通して追求する。  
地域文化から学ぶ・掘り起こす (関東ブ)
2. 若い世代の活動・研究・実践などのバックアップとそれらの理論や歴史的意味づけなどのエンパワメント。(関東ブ)
3. 播磨靖男、谷口奈保子、石原美智子、西嶋公子、宮城まり子・・・などの、我国における福祉文化実践の先駆者とおぼしき方々が会員でないということは何とも寂しい。(関東ブ)
4. このようなアンケートを実施して下さり、会員個々の意見を理事会に上程頂く作業は大変有り難く思います。働きに感謝致します。各地区よりブロック委員を選出し、各地の声を学会運営に反映することも大事かと思えます。(九州ブ)
5. 研究分野と実践分野が一緒に福祉文化を学ぶことができる点が素晴らしいと思います。  
各ブロックにおける更なる活動の推進を望みます。(北陸ブ)
6. 現場(福祉)で問題となっていること。福祉に文化の質を高めるにはどうすればよいのか。  
事例研究の中から課題解決や新たな取り組みを試みるという体制になると良いのではないかと。(関東ブ)
7. 各地区やアジアの国との共同研究や調査または活動などを行い、その成果をとりまとめて発表し、政策提言を行うといったことも良いのではないかとと思えます。(関東ブ)
8. 福祉文化は、私たちの生活を取り巻くものすべてが対象です。とても幅広く、どんな切り口からも研究できます。本学会での発表を俗にいう業績をあげる目的で入会している人もいますが、他分野(福祉領域以外で仕事をしていた方々)から入会なさった方々に「文化」と「福祉」の融合であることを認識していただくことが大切かと思えます。一味違った学会であることを・・・。(関西ブ)
9. 現場セミナーなど楽しい企画をお願いします。(九州ブ)
10. 会員数の拡大。ブロック活動を支える人づくり・システム。広報。(中国・四国ブ)
11. 学会に参加させていただき皆様の実践の継続性に目をみはりました。しかし、私にはまだ福祉文化がとらえきれずに困惑しています。ブロック交流会があれば参加させて下さい。  
事例を重ねた検討会があれば参加したいと思えます。(関東ブ)
12. (1) 問題提起型の学会へ。(2) 地域の小さな活動をネット上で紹介・リンクするサイトをより多くホームページに置く。(中部・東海ブ)
13. 具体案ではありませんが、会員の活動する近くで顔の見える関係(他の会員との)がつくれ、プラスの感情が生じるようにできると良いと思います。そのためには、ブロックの活発な活動促進(場合によっては本部でのこ入れも必要か?)、会員数の増加→そのためには会費の減額や通信類や情報の充実なども考慮されるべきではないでしょうか。(北陸ブ)
14. 学会大会・ブロック大会などでの研究発表・論文投稿の機会を増やす。  
論文集「福祉文化研究」の装丁をキレイにしたり、Amazon 他、一般的に購入できるようにしてほしい。(関東ブ)
15. 現場に立脚し、現場で福祉文化を高めるための具体的なアピールが必要だと思います。  
(介護保険制度にとらわれ、広い意味でのケアのあり方が問われている) (関西ブ)

16. 個人ではなかなか直接訪問できない施設や地域の新しい試みの現場でセミナーをすることが嬉しい。私は先頭に立つことはできませんが・・・。がんばって下さい。(関東ブ)
17. 福祉文化学会をアピールし、新規会員を増やす。(関西ブ)
18. 高齢者福祉に関して：高齢者の知的レベルが高くなっている今日、文学・歴史・芸術に関する知識が必須である。そのための研修会を行ってはどうか？(関東ブ)
20. お世話になっております。ブロック内での会員どうしの交流を深めて行くことが必要かと思っております。(北陸ブ)
21. 校務で忙しくしております為、学会活動になかなか参加できておりませんが、学会などで情報をご提供頂きありがとうございます。季刊誌など、定期的に外部へ発信する雑誌などがあるとより活性化するのではないかと思います。(関西ブ)
22. なかなか大学の行事と重なり、出席できずに申し訳ありません。(九州ブ)
23. お世話になります。よろしく願いいたします。(関東ブ)
24. 私もがんばって研究活動します。(関西ブ)
25. 福祉と文化の融合がないと本当の福祉文化が形成されないように思う。どうしても福祉は福祉でかたまり、文化は文化で固まっているように見えます。本当に文化、本当の福祉とはいったい何なのか今見直すチャンスだと思います。そんな学会を期待します。(中国・四国ブ)
26. 子ども、若者を含め「貧困」が問題になっていますが(我国)、福祉文化をめざす方向を再検討、再認識するような機会を設けて頂くと・・・です。(関東ブ)
27. 会員にとって魅力ある学会を創ることが必要です。例えば、学会出版の福祉文化シリーズなど、一部役員だけが執筆できるのではなく、広く会員から出筆者を募るなどして、公平に学会員であることが実感できるシステムが必要です。福祉文化学会に入会して良かったと思われるような取り組みが必要でしょう。(東北ブ)
28. 会員の日々の活動をサポートする活動。たとえば、メーリングなどを利用した悩み相談、事例検討などできるようになると会員拡大にもつながると思う。(関東ブ)
29. 本年度入会しましたので、今後積極的に学会活動に参加させていただきます。(関西ブ)
30. 今、どこでもとても難しいみたいですね。私も、ぜひ知りたいです。(関東ブ)
31. あらゆる機会をとらえて会員ニーズの把握に努める。全国大会でもアンケートをとり、結果を会員にフィードバックすることが大事なのではないか。(関東ブ)
32. 多くの学会員が何らかの役割を持って活動することによって、学会所属の意識が高まると思います。(関西ブ)
33. 会員数増→会員相互の交流→実践研究。(北陸ブ)
34. ①「福祉文化」の理論的基盤と実践報告の方法論を確立し、「福祉文化」全体としての理論的・実践的達成点を確認すること。  
② ①のうえでも、今後も実践を積み重ねていくこと。(関東ブ)
35. まずはブロック活動の充実が重要だと思います。テーマに共通性があれば複数ブロックの合同企画があっても良いのかもしれませんが。仙台大会は、内容の濃いよい大会だったと思います。学会員としては日が浅いのですが、少しずつできることをしていきたいと考えております。(北陸ブ)
36. 学会の存在と活動内容をアピールできれば会員数の増につながるのでは、と思います。(学会とは異なる職場におりますので、ご協力することが少なく申し訳ありません) (中国・四国ブ)

37. 各県の会員相互の交流が図れる研修会・交流会などがあればより学会が身近なものになり、会員としての一体感・所属意識も高まるのでは？と思います。が、誰が企画・運営していくか難しいです。(中国・四国)
38. ①対象別・職種別分科会の創設  
②学会部会の創設  
③メールニュースの創設 (関東ブ)
39. ブロックごとの取り組み(大会、研究、出版)を進めていただきたいです。  
そもそも、ブロックの会員にどのような方がいらっしゃるかが分かりません。(北海道ブ)
40. 新しい会員を増やすための積極的な活動。特に現場にたずさわっている人たちが、身近にきやすいブロックごとのセミナーをお願いします。(関東ブ)
41. 創設時の原点を考えること。現場重視のこと。現場裁量を一旦決定したのであれば事後にあわてて批判をしないこと。
42. 福祉文化創造にふさわしい実践をされている、特に“芸術系(音楽・美術・舞台・・&スポーツを含む)パフォーマンスを学会大会とコラボして、公演してもらおうというのはどうでしょうか？(関西ブ)
43. 一方的な研究会・研修会ではなく多方向型、リーダーシップ型の会にしてほしい。(関東ブ)
44. 施設運営、在宅サービス運営などの実践者の多数の参加と交流。研究者とのコラボを期待します。(関東ブ)
45. 現場従事者、専門職団体、養成校などに学会員(個人・研究チーム)が赴いて、研究発表、事例紹介を講演会形式で行っていくことを希望します。(関東ブ)
46. 福祉教育や現場のプロでリタイアされた方々の話を聞き、これからの福祉をともに考えていける交流の場があるといいな～。(関東ブ)
47. 新入会員を大切にする。その人たちの声をニュースレターなどで反映させる。(関東ブ)
48. 国際交流と現場セミナー。(関東ブ)
49. 学会ホームページになるべく早い段階で予定等をのせていただきたいです。例えば、大会の申し込みやその他の情報など。  
(一部事務処理および事務手続きに関する事についてはそれぞれ事務局からご連絡する事でここでの掲載は致しませんでした。ご了承下さい。)

#### 【編集後記】

久々に行った会員アンケートでしたが、自由記述にも、回答者の半数近い方が記入してくださいました。正直思いもかけないことでした。率直なご意見やご希望が寄せられました。心から感謝申し上げます。

いただきましたご意見で現場セミナー、ブロック内の会員交流など 2012 年度は少しずつ具体化にとりくんでおります。

今後の学会やブロック活動において、検討材料として大いに活用してまいりたいと思っています。皆さまにも、積極的な関わりを期待しております。

アンケート調査へのご協力、本当にありがとうございました。(木村)